

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

帆 足 鉄 雄	氏	下関市医師会	10 月 30 日	享 年	88
植 野 卓 也	氏	厚狭郡医師会	11 月 11 日	享 年	56
河 谷 高 士	氏	柳 井医師会	11 月 18 日	享 年	90
吉 村 宏 明	氏	熊毛郡医師会	11 月 18 日	享 年	85
柳 陽 二	氏	防 府医師会	11 月 24 日	享 年	81

編 集 後 記

今年も地震や豪雨により DMAT や JMAT が活動するような大きな災害があった。そして医療領域では、来年度の医療と介護の報酬の同時改定について、その成り行きに目の離せない年の瀬になるであろう。本号に掲載の歳末放談会においても、「2017 医療は今」と題して「AI と医療」、「医師の働き方」、「高額医療費・高額薬剤」という直近の医療課題について活発な意見交換が行われた。

最近、マイケル・マーモット著『健康格差—不平等な世界への挑戦—』を読んでいるが、私の知力、体力、経験ではなかなかサクサクとは読み進められない。因みに訳者代表の野田浩夫 先生は大学の同級生である。マーモット氏は、「トップ 1 % の健康でも、最下位の健康でもなく、『健康の社会的勾配』（国家間、国内の集団間、個人間の）に目を凝らすなら、回避できるはずの健康の不平等が見えてくる」とし、文中には「何かやろう。もっとやろう。もっとうまくやろう」というフレーズが幾度も出てくる。横倉義武 日医会長は、「世界に誇る国民皆保険のわが国でも健康格差の拡大が懸念されている。病気を治すという医療の枠に留まらず、何が問題なのか、何をすべきなのかについて考え、行動する上で、本書は極めて示唆に富んでいる」と推薦者のことばを書かれている。簡単なことすら行動に移すことができている自分を不甲斐なく思う。来年こそは、「何かをやろう」。

（常任理事 今村 孝子）